

2020 年度（前期） 八戸学院大学短期大学部 教務委員会

学修時間・学修行動に関する調査結果（2020 年度・前期）

【調査の目的】

本調査は、学生の学修行動や成果など可視化し、本学の学習支援や授業改善等の教学改革のエビデンスに活用することを目的として実施した。

【調査実施期間および回答数】

幼児保育学科1年生	2020年7月27日(月)～7月30日(木)	85名	
幼児保育学科2年生	2020年7月20日(月)～7月22日(水)	83名	幼児保育学科 計 168名
介護福祉学科1年生	2020年7月28日(火)～7月31日(金)	21名	
介護福祉学科2年生	2020年7月28日(火)～7月30日(木)	10名	介護福祉学科 計 31名を

【回答形式】

2020 年度各学科・学年の前期定期試験最終日の試験終了後、前期(休校期間中を含む)の学修時間・学修行動に関する質問項目を、幼児保育学科・介護福祉学科の学生全員に向けて、Google Forms のリンクで配布し、回答入力を依頼した。

【結果】

今期の学生の授業期間の1日あたりの学習時間は、幼児保育学科1年生(以下、幼保1年)と介護福祉学科1年生、2年生(以下、介福1年、介福2年)では「1時間～2時間」が最も多く、それぞれ、29名(34.1%)、11名(52.4%)、6名(60.0%)であった。幼児保育学科2年生(以下、幼保2年)では「0～30分」が最も多く、22名(26.5%)であった。また、各学科・学年とも、「2時間以上」の学習をしている学生は20%余りいた。

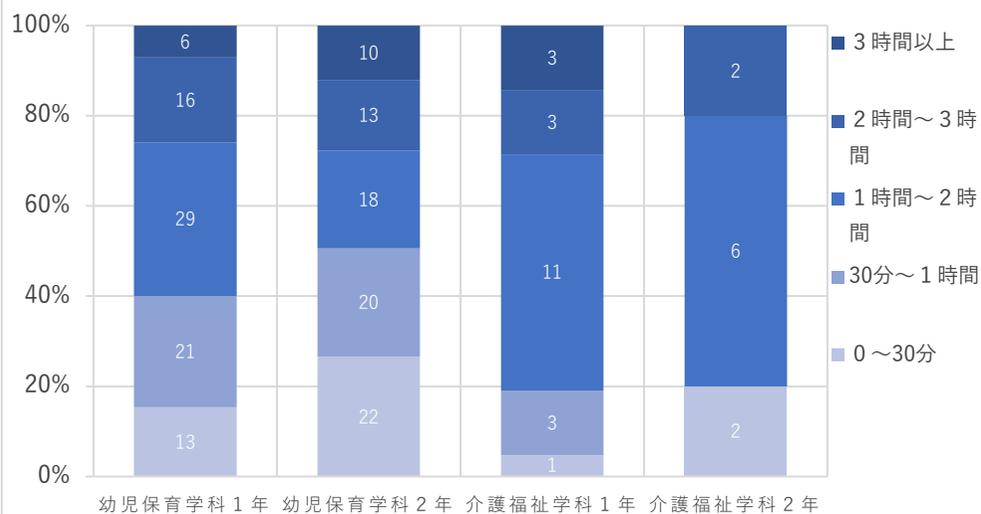
また、本学では新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、4月14日(火)～5月10日(日)を休校期間とし、オンライン授業等を含む遠隔授業を実施したが、その間の学生の1日あたりの学習時間は、幼保1年、介福1年では「2時間～3時間」が最も多く、それぞれ、31名(36.5%)、10名(47.6%)であった。幼保2年、介福2年では「1時間～2時間」が最も多く、32名(38.6%)、4名(40.0%)であり、各学科。学年とも、休校期間中の遠隔授業時では通常授業期間より約1時間学習時間が伸びたことが窺えた(休校期間中の学生による授業評価は別途調査資料あり)。

定期試験前の試験勉強開始時期については、両学科とも1年生で「1週間前から」が最も多く(幼保1年 43名で 50.6%、介福1年 12名で 57.1%)、2年生では両学科とも「2～3日前」最も多かった(幼保2年 35名で 42.2%、介福2年 4名で 40.0%)。このことは、試験勉強の合計時間に反映されており、「40時間以上」と回答した学生は、幼保1年で 30名(35.3%)、介福1年 8名(38.1%)であったのに対し、幼保2年 11名(13.3%)、介福2年 2名(20.0%)であった。

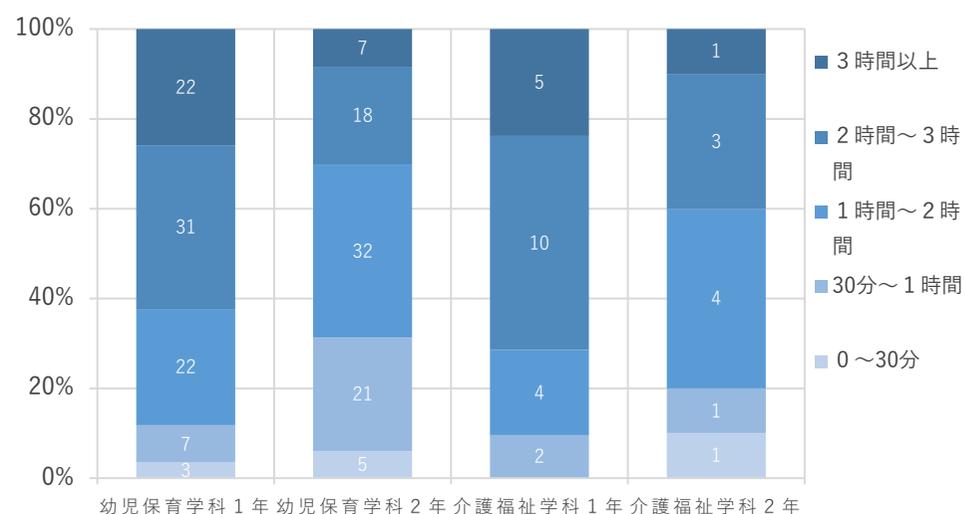
また、試験準備に関する自己評価では、「全ての科目について準備ができた」と「大体の科目について準備ができた」を合わせると、両学科とも 65%を占めていた。さらに、この自己評価を試験勉強開始時期ごとにみると、開始時期が遅い群では早い群に比べると「一部の科目について準備できた」と「ほとんどの科目について準備できなかった」と回答した学生が散見された。一方、試験準備が間に合わなかった科目の数については、学科・学年に関係なく、「2科目」以上と回答した学生が半数～半数以上を占めていた。

試験勉強に用いた方法については、「ノートを作る」、「ノートや配布物を読み直す」が多く、幼保1・2年生では次いで「友達と一緒に勉強する」が多かった。また、試験準備に関する行動改善については、「余裕をもった試験勉強の計画を立てる」が最も多く、次いで「日頃から復習をまめに行う」、「日頃から授業に集中しノート等をしっかりとる」が多かった。

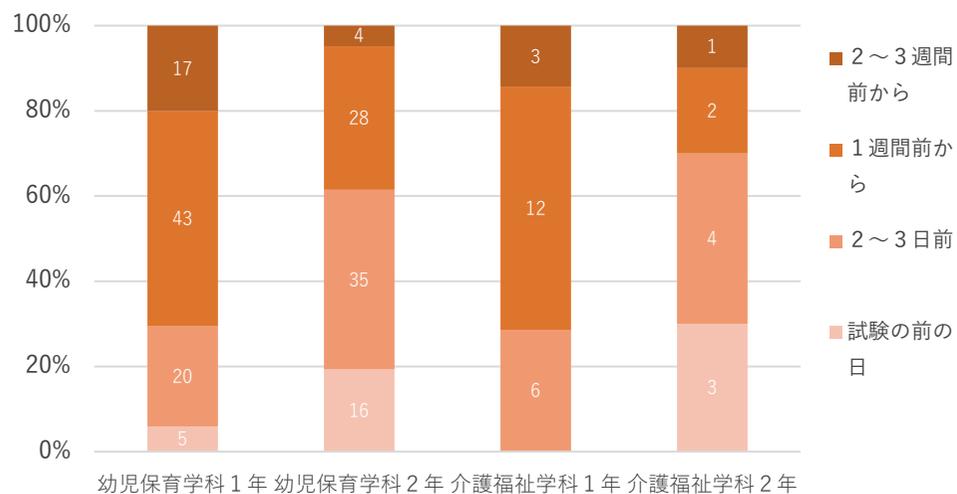
①授業期間（前期）の学生の一日あたりの学習時間



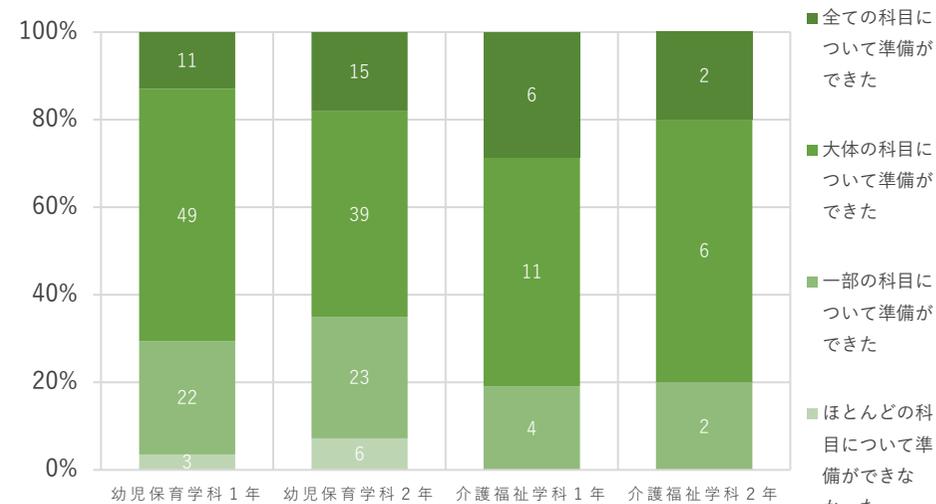
②授業期間（休校期間中*）の学生の一日あたりの学習時間



③試験勉強の開始時期

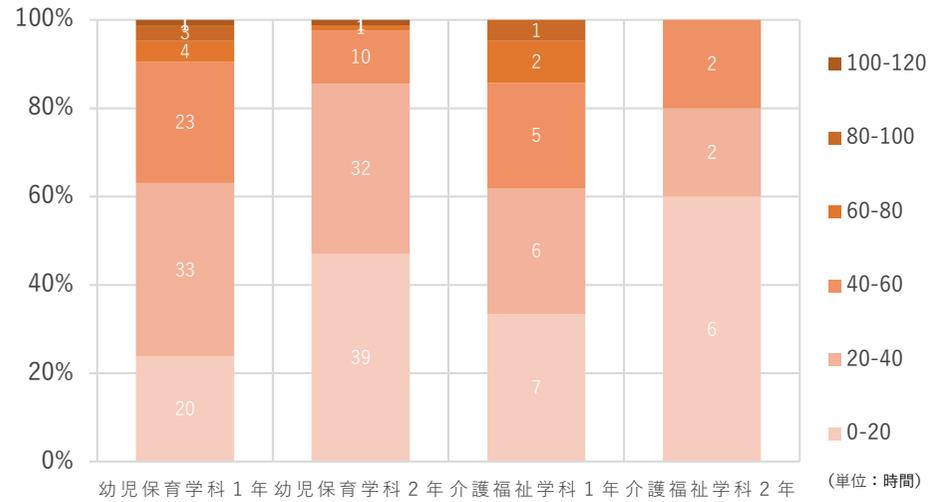


④試験準備に関する自己評価

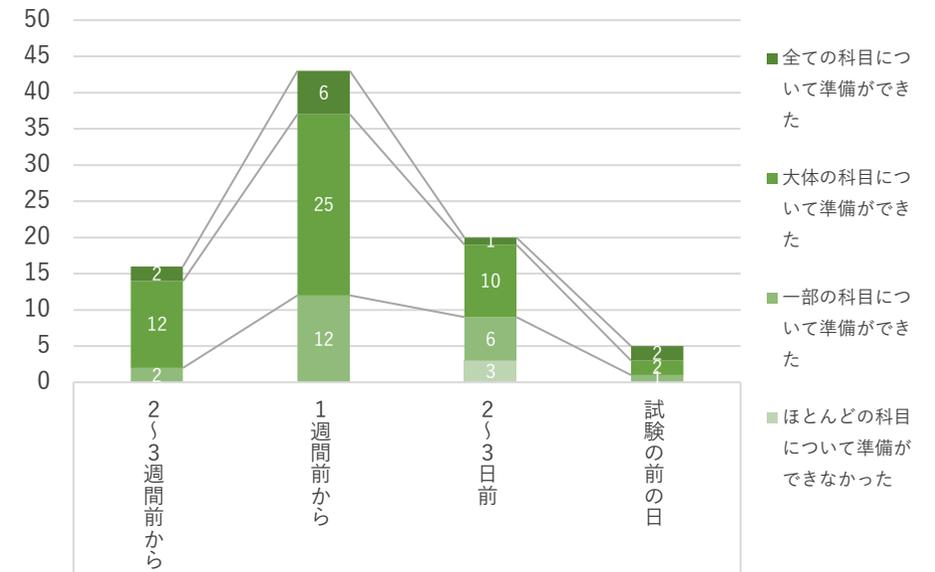


*八戸学院大学短期大学部では、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、2020年4月14日（火）～5月10日（日）を休校期間として、オンライン授業等を含む遠隔授業を実施した。

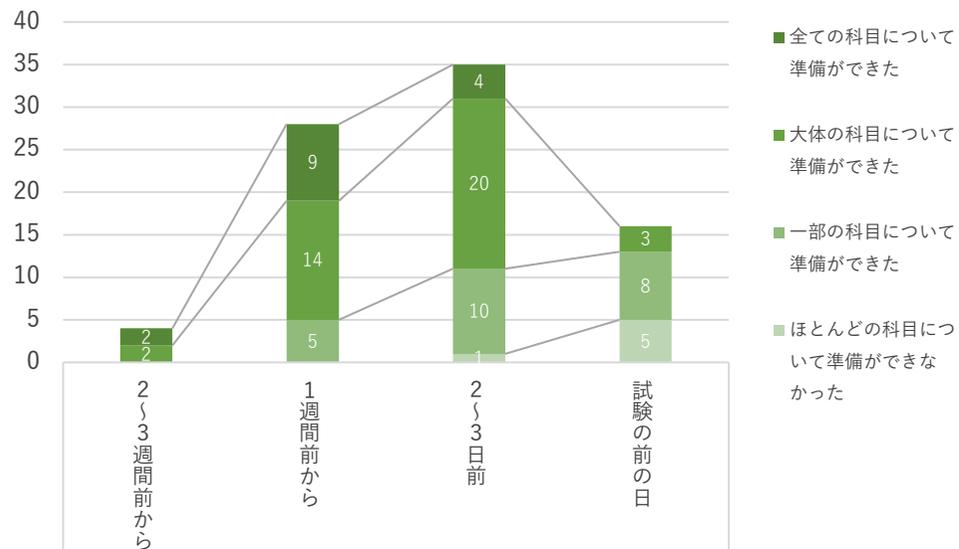
⑤ 試験勉強の合計時間



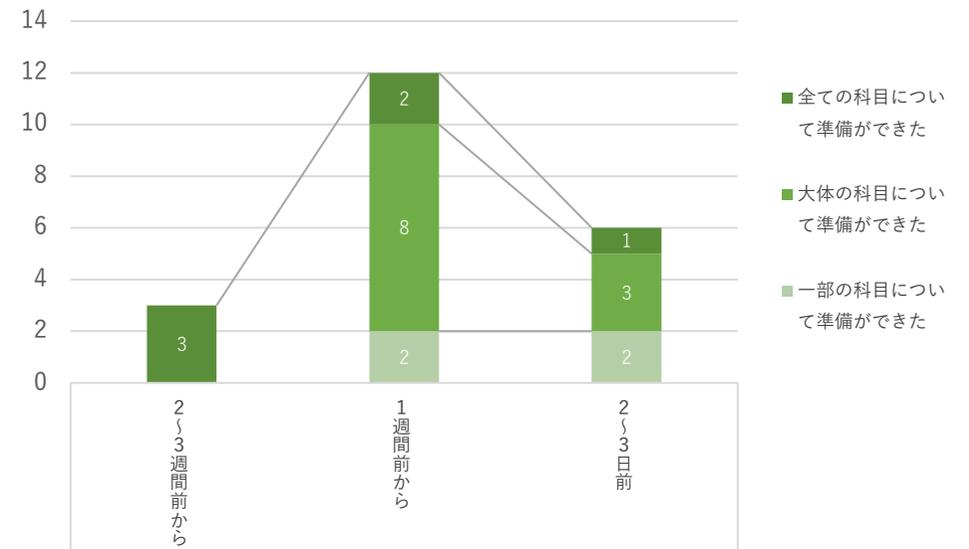
⑥ 試験準備開始時期と自己評価の関係 (幼児保育学科 1年)



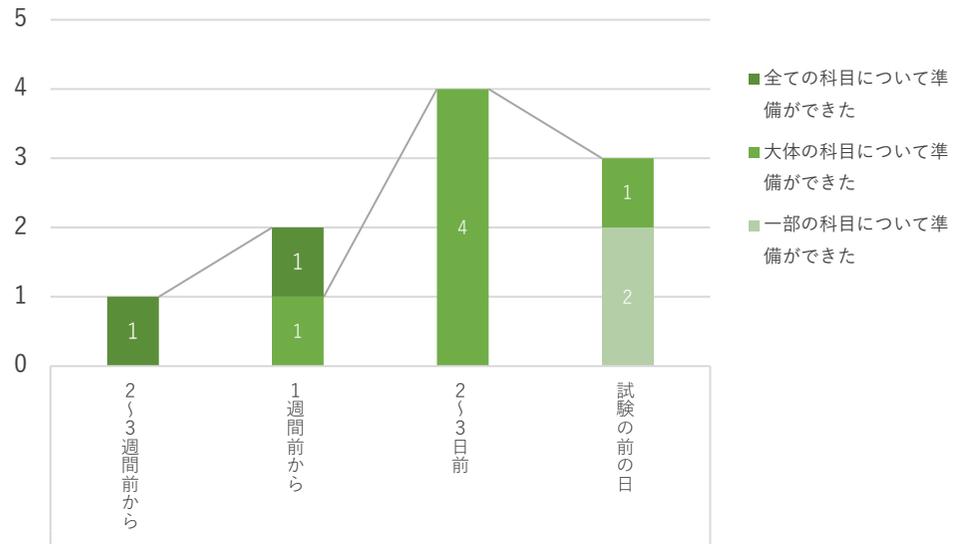
⑥ 試験準備開始時期と自己評価の関係 (幼児保育学科 2年)



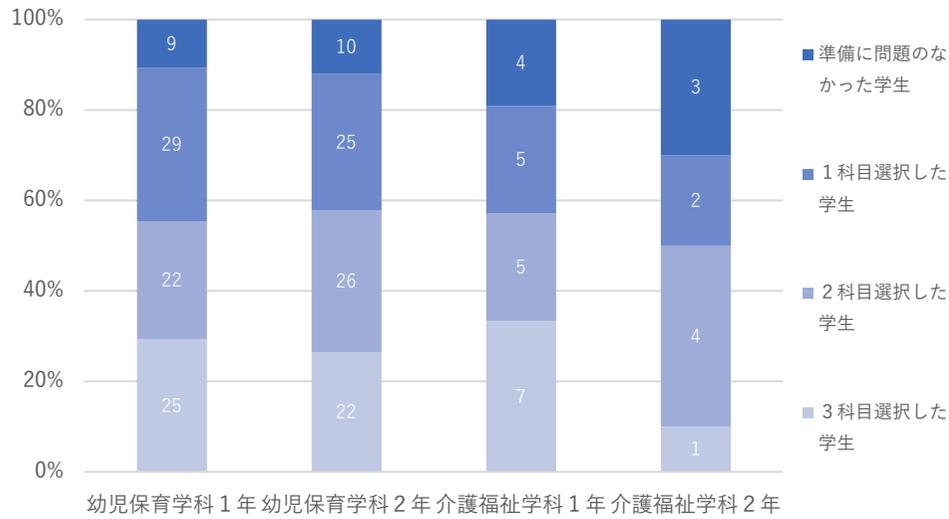
⑥ 試験準備開始時期と自己評価の関係 (介護福祉学科 1年)



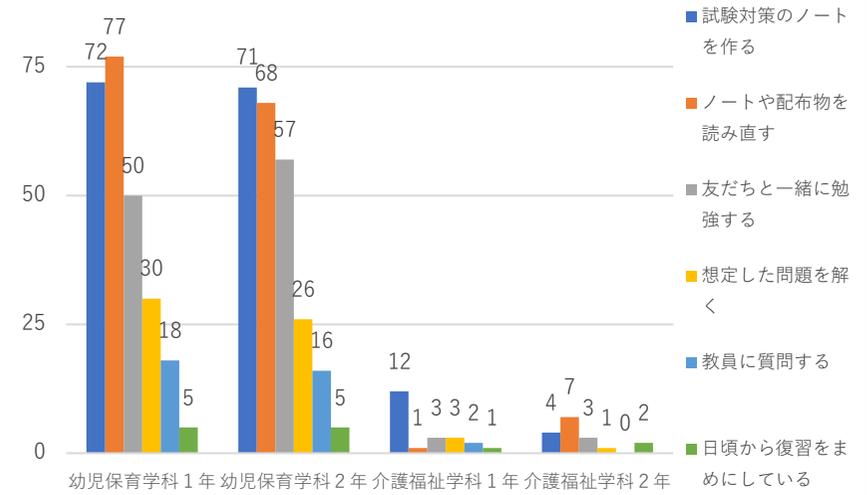
⑥試験準備開始時期と自己評価の関係（介護福祉学科2年）



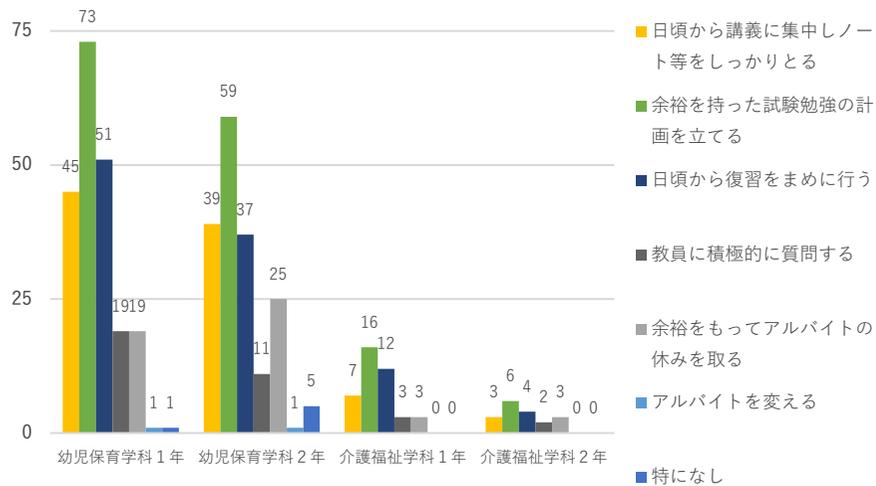
⑦試験準備が間に合わなかった科目の数



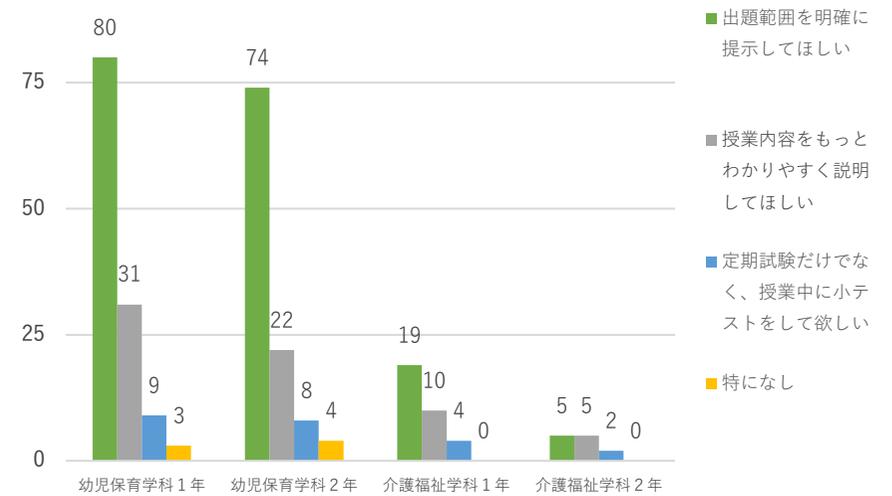
⑧試験勉強のために用いた方法



⑨試験に十分な準備をして臨むために、これから自分ではどのように行動を改善しようと思いますか？（選択・複数回答可）



⑩試験に十分な準備をして望むために、教員にどんなことを望みますか？（選択・複数回答可）



⑪試験に十分な準備をして臨むために、これから自分ではどのように行動を改善しようと思いますか？（自由記述から代表的な回答を抜粋）

<ノート作成、教員への質問、プリントの有効活用>

- ・講義中にノートをしっかり取る。大事な部分は付箋や線を引く。（幼児保育学科2年）
- ・プリントなどの資料をあっちこちのファイルに仕舞わない。（幼児保育学科2年）
- ・分からない範囲は積極的に質問に行くようにする（問い合わせをする）（介護福祉学科2年）

<アルバイトの見直し・生活習慣の改善>

- ・今回はアルバイトを試験期間中にも入っていたが、次回のテストは試験期間前から余裕をもって休みをもらい、しっかりと試験勉強をできるようにする。（幼児保育学科2年）
- ・スマホをいじる時間を減らす（幼児保育学科2年）

<試験勉強の時期を早める>

- ・もう少し早めに対策をするべきだった（幼児保育学科1年）、もっと早めに勉強に取り組む（介護福祉学科2年）
- ・試験までの時間を逆算して、余裕を持ってテスト勉強を行う。教科書やプリント持ち込み可の教科でも、どこに何が書いてあるかは事前に把握しておく。前の日に詰め込み過ぎない。（幼児保育学科1年）
- ・1週間前から始めると、前半の科目ばかりに集中してしまい、後半の科目が疎かになるため、後半の科目にも時間をかけられるように、調整する。（介護福祉学科1年）

⑫試験に十分な準備をして望むために、教員にどんなことを望みますか？（自由記述から代表的な回答を抜粋）

<出題範囲・問題形式の提示、出題範囲の早めの提示>

- ・先生によって範囲を示し方が違います。とても細かく教えてくれる先生もいれば、大雑把にしか教えてくれない先生もいます。（幼児保育学科1年）
- ・出題範囲が人によって全くわからない人もいるし、出題範囲と違うところが出て意味がわからない教科があった（幼児保育学科1年）
- ・テストに出る箇所を明確に教えて欲しい（幼児保育学科2年）
- ・テストに出す範囲は講義中所々で声がけして貰えたら嬉しいかなと思いました。（幼児保育学科1年）
- ・3週間前にはおおよそのテスト範囲を教えてください。あと、教えられる分でもいいのですが、テスト範囲を細かく教えてください。（幼児保育学科1年）
- ・講義終了ぎりぎりに出題範囲を早口で言うのではなく、時間に余裕を持って出題範囲を明確に教えていただけると嬉しいです。（幼児保育学科1年）
- ・教科書のページ数や、どういう風に出すのかをはっきりして欲しい。（幼児保育学科1年）
- ・AクラスとBクラスに言うテスト範囲を平等にしてほしい。（幼児保育学科2年）
- ・範囲が曖昧になる科目や複数の教員が担当している科目の範囲がわかりにくかった（介護福祉学科2年）